事例 No.16

タイトル：治療と仕事，家庭生活の包括的支援を行うことで就労継続が可能となった一例

投稿者：横浜労災病院　勤労者医療総合センター　野原　久司

活動の良い点 　社会的な因子に対して支援を行い、症状の改善、安定した復職後の経過を実現しました。
他事業所で活用できる点 　多くの労働者において、社会的な因子がストレッサーとなる可能性があり、多事業場で活用可能と考えます。
今後の期待 　類似の事例を蓄積して、いくつかのパターンに分けるなどにより汎用性を高められると良いと考えます。